



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/30 (月)	▲ 200	+ 18,800	+ 18,600	国庫短期証券 発行・償還 (3M)			
8/31 (火)	+ 1,200	+ 100	+ 1,300			CP等買入 + 5,000	日:完全失業率、有効求人倍率 鉱工業生産 (7月) 欧:ユーロ圏CPI (8月)
9/1 (水)	トン	▲ 15,000	▲ 15,000	国債発行・償還 (2Y)	共通担保 (全) ▲ 3,400 成長基盤 ▲ 4,000	成長基盤 + 5,000	日:若田部日銀副総裁、広島県金融経済懇談会で挨拶
9/2 (木)	トン	▲ 14,000	▲ 14,000	税・保険揚げ 地方交付税交付金			日:片岡審議委員、長崎県金融経済懇談会で挨拶
9/3 (金)	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000	国債発行 (10Y)			米:米雇用統計 (8月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初538兆4,000億円から始まった。その後、国庫短期証券、5年利付債発行を主に減少し25日には534兆6,100億円まで減少した。その後、新型コロナ対応金融支援特別オペを主に増加し、536兆1,700億円を越えた。

無担保コールON物は、週初に大規模な試し取りが行われたことにより、同加重平均金利は△0.032%から始まったものの、その後動意は乏しく週末まで△0.037%で推移した。

ターム物は主に、△0.040%~△0.020%のレンジで出会いが見られた。

来週の国内予定は、31日に7月の完全失業率、有効求人倍率、鉱工業生産 (前月比、前年比) の公表がある。海外では、31日に8月のユーロ圏CPIの公表、9月3日に米雇用統計の公表がある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

### <レポ>

足許GC取引は週初△0.10%近辺の出会いからスタート。5Y債発行が発行された24日の取引以降、資金調達の動きが強まり△0.095%~△0.085%近辺まで徐々に上昇し、短国3Mが発行された27日の取引では、△0.08%近辺の水準まで上昇し越えた。SC取引では2年409~427回債、5年137~148回債、10年333~363回債、20年163~177回債、30年69~71回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,500億円で、週間償還額 (約1兆6,900億円) を下回った。月末の期落ち (約1兆600億円) については約8,300億円程度の発行に止まり、償還超となった。発行残高は先週末の25兆2,941億円から、26日時点で25兆3,136億円に増加した。発行レートは、ディーラーの引き受け需要が強く、一部の銘柄で非常に深いマイナスレートでの約定が観測される等、△0.09%~0%近辺での出会いとなった。26日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオフアールされ、結果は按分レート△0.015% (前回△0.013%) ・平均落札レート△0.010% (前回△0.011%) と案分レートはやや低下した。

来週の週間償還額は、1,800億円程度となっている。発行市場は、月初めでもあり、5・10日発行以外は案件少なく落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、希少銘柄や期末越の案件等に対しては深いマイナス金利での出会いが予想される。

### <TDB>

8月24日の6M1018回債(2022年2月25日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1248% (前回債△0.1189%)、平均落札利回り△0.1308% (前回債△0.1189%)、8月27日の3M1019回債(2021年11月29日償還)の入札は最高落札利回り△0.1162% (前回債△0.1162%)、平均落札利回り△0.1202% (前回債△0.1239%)となった。

来週は9月3日に3Mの入札がある。